日本コラージュ療法学会

第11回大会　ワークショップのご案内

本大会のワークショップでは，コラージュ療法の基礎的理論をふまえたコラージュ体験やコラージュ作品のアセスメント方法，コラージュ療法の研究方法，関連する技法の活用など，コラージュ療法への理解を深めるための講座を幅広く用意致しました。皆様の積極的なご参加をお待ち致しております。

Ⅰ．日　時：　2019年8月3日（土）10:00～12:30（受付開始9:30）

Ⅱ．会　場：　金城学院大学　〒463-8521　名古屋市守山区大森2-1723

Ⅲ．参加費用（※下記は早期申込料金，6/21以降の申込の場合1,000円プラス）

　　　　　＊会員　　一般：5,000円　　　大学院生：3,000円

　　　　　＊非会員　一般：6,000円　　　大学院生：4,000円

Ⅳ．概要・講師紹介

**＜定員＞**

ワークショップG（講師：加藤勢季子先生）は定員25名，そのほかのコースは定員40名です。

**＜持ち物＞**

　特に制作実習のあるコースでは，指定された持ち物をご確認ください。

**ワークショップA　「コラージュ療法の基本を学ぶ―セラピスト，クライエント双方にとって負担が少なく満足感を得る方法―」**

講師：森谷　寛之（京都文教大学・名誉教授／京都コラージュ療法研究所）

　公認心理師誕生おめでとうございます。国民の心の健康を支える専門家として大きな期待がかけられています。

　心の健康を支えるためにさまざまな方法が工夫されてきた。それらはセラピスト側として導入しやすく，クライエント側にも負担が軽く，さらに，結果が満足できるものでなければならない。まず最初に身につけておくべき方法の一つとして，「コラージュ療法」を勧めたい。

　「コラージュ療法」は1987年5月に筆者が箱庭療法をヒントに突然思いついた方法で，新聞や雑誌，パンフレットなどの絵や文字を自由に切り抜き，台紙の上に貼り付けるだけの単純明解な方法で，セラピスト，クライエント双方にとって負担が少ないのが最大の特徴である。しかも，制作についての満足度も高い。この療法の歴史的由来，基本理論，制作実践方法などを基本から講義したい。

【制作実習】切り抜いてもよい雑誌数冊，糊，はさみを持参して下さい。

参考図書

森谷寛之『コラージュ療法実践の手引き』（金剛出版，2012）

森谷寛之『臨床心理学への招待―無意識の理解から心の健康へ』（サイエンス社，2018）

（心理臨床実践の基本を理解するために，『臨床心理学への招待』も併せてご覧いただきたい。）

**ワークショップB　「イギリス・アートセラピー入門」**

山上　榮子（森脇神経内科）

本大会特別講演の演者であるDubowski，J.　博士にイギリス・ハートフォードシャー大学大学院のアートセラピーコースで直接指導を受けた山上が，このワークショップを担当します。イギリスのアートセラピーには，「コラージュ療法」という特化した技法はありませんが，コラージュのテクニックは広範囲に用いられています。ここでは，「コラージュ療法」をも包括するイギリス・アートセラピーの一端を，取り組みやすい課題を通じて体験していただきます。さまざまな素材を通して自己表現し，新しい自分を発見する楽しさを味わってください。

※なお，Dubowski，J.　博士による本格的なイギリス・アートセラピーについての学びは，3日間のサマースクールとして，西九州大学と金城学院大学での開催を7月末～8月初めに予定しています。貴重な機会ですので，ご関心のある方はぜひご参加ください。

**ワークショップC　「マガジン・フォト・コラージュ（MPC）の体験と事例」**

　講師：今田雄三（鳴門教育大学）

マガジン・フォト・コラージュ（MPC）はアメリカのランドガーテンが提唱した，明確な枠組みと手順が設定された４つの課題に則ってコラージュ制作を行い，制作者の連想を引き出し，アセスメントやセラピーに活用するための技法です。MPCは我が国で普及しているコラージュ療法とはその着想や理論的背景，教示や制作法，解釈の原則などが大きく異なっており，実施に当たってはその点に十分留意する必要があります。本ワークショップでは制作体験，MPCの作品の紹介と解釈手順の解説などを通して，MPCという技法を体験的に理解することを目指します。

【制作実習あり】台紙と写真の切り抜きはこちらで用意いたします。糊とはさみ，筆記用具をご持参下さい。

**ワークショップD　「コラージュ療法研究と論文執筆」**

講師：加藤　大樹（金城学院大学）

論文執筆の基礎を学ぶことは，最新の研究成果を読む際にも，修士論文などを執筆する際にも役立ちます。本講座では，アカデミック・ライティングの基礎や研究計画に応じた分析方法の選択の仕方などを学びます。また，事例研究・基礎研究の両面から，研究論文をまとめる上で必要なエッセンスについて理解を深めます。さらには，論文投稿の際に知っておきたいプロセスや留意すべき点なども実践的に学びます。修士論文でコラージュをはじめとした芸術療法研究に取り組まれる方，これまでの臨床事例や研究成果を投稿論文としてまとめたいと考えている方，論文を読む際の視点を学びたい方などに幅広く受講していただければと思います。

**ワークショップE　「材料から考えてみよう～コラージュ療法入門編～」**

講師：二村　彩（金城学院大学）

　コラージュ療法を実施しようと思った時，皆さんはどのようにして材料を準備し，使用してきましたか？コラージュ療法の材料は，「内容の幅の広さ」に加え，クライエントさんにあわせて選ぶ必要がありますが，「言うは易し，行うは難し」の作業です。そこには，臨床的な意味合いも含まれますし，様々な配慮も必要です。今回のワークショップでは，「コラージュ療法基本材料シート集」を使用して制作体験をして頂きます。そのワークを踏まえて，“材料の種類”“気をつけて集めたい材料”“クライエントさんに合わせて選ぶポイント”など，材料をめぐる問題を解説したいと思います。

【制作実習あり】のり，はさみを持参して下さい。材料はこちらで用意します。

**ワークショップF　「バウムテストの臨床的活用」**

　講師：仁里文美（金城学院大学）

　バウムテストは日本で一番使われている心理検査であるといわれていますが、やはり投影法であるため、どのように理解すればいいのか、臨床場面でどのように用いていけばいいのか、初心者には難しいところだと思います。そのため、基本的なバウムテスト（投影法）のメカニズムを理解するとともに、バウムのどこをどのように見ていけばよいのか、クライエント理解につながるバウムテストの見方を学びます。また臨床場面に活かせるよう、発達的な特徴をもったバウムやさまざまな症状を呈するクライエントのバウムを紹介・解説します。今回のワークショップでは，自らバウムを描くことによって、バウムを描く難しさを体感し、バウム理解のポイントを掴んでいただければと思います。

【制作実習あり】あれば４Bの鉛筆（こちらでも用意しますので、ない場合は結構です）と消しゴムを持参して下さい。画用紙はこちらで用意します。

**ワークショップG　「土の粘土に触れよう～粘土ワークの体験と実践紹介～」**

講師：加藤　勢季子（陶工房つるかめ）

　油粘土，小麦粉粘土，プラスチック粘土・・・粘土といっても様々な種類があります。今回は，陶器の材料となる土の粘土を体験素材とします。土の粘土も，砂場の砂に近いような石粒が混ざっている粘土や，洗顔クリームのような滑らかな粘土など様々です。

本ワークショップでは３種類の違う触感の粘土に触れてみて，その違いを感じていただこうと思います。また，土の粘土を使った制作を通して，粘土の質感を確かめたり，自己表現する楽しさを味わっていただけたらと思います。

　今回は，障がい者施設での粘土ワークの様子もあわせて紹介いたします。参加者の方が楽しんで制作する様子から，粘土は誰もが扱える自由度の高い素材である事を感じていただけると思います。

【 制作実習あり 】

汚れてもいい服装でご参加ください。今回制作していただきます作品は焼成いたしません。定員は25名です。

持ち物：手拭きタオル，エプロン

Ⅴ．受講資格

ワークショップの参加には，原則として日本コラージュ療法学会会員であることが必要です。ただし，非学会員でも臨床心理士の有資格者，臨床心理学を学んでいる大学院生，心理臨床・医療・教育・福祉・産業・司法（矯正）領域等で対人援助職に従事されている方は参加可能です。

Ⅵ．ワークショップ参加の申し込み方法

**＜申込み手続き＞**

　同封の払込取扱票に必要事項を記入し，受講料の振込みを済ませてください。それから「ワークショップ・大会・懇親会申込書」（往復ハガキ）に必要事項を記入し第11回大会事務局にお送りください。受講料の振込みが確認できませんと，予約申し込み完了とはなりませんのでご注意ください。

**＜申込み締切日＞**　平成31年6月20日（木）まで（当日消印有効）

　　　　　　　　　※往復ハガキには往信・返信ともに切手をお貼りください

＜**受講料振込み先**＞

ゆうちょ銀行

口座番号：00850-4-73295

　　加入者名：日本コラージュ療法学会大会準備委員会

**＜第11回大会・ワークショップに関する連絡先＞**

**日本コラージュ療法学会第11回大会準備委員会**

〒463-8521　名古屋市守山区大森2-1723　金城学院大学人間科学部 今村研究室内

E-mail：collage.conference@gmail.com